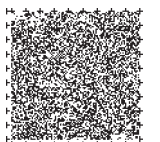


資料編



1 策定の過程

1-1 生物多様性かつしか戦略策定の経緯

葛飾区では、地球温暖化問題や循環型社会の構築、生物多様性の保全など、環境を取り巻く状況の変化に対応するため、平成23年3月に「葛飾区環境基本計画（第2次）」を策定しました。

この葛飾区環境基本計画（第2次）の策定を受けて、区内における生物多様性の保全及び持続可能な利用*を推進し、将来にわたる生活基盤を確保するため、生物多様性基本法*に基づく区の生物多様性地域戦略である「生物多様性かつしか戦略」を策定することとしました。

戦略策定にあたっては、「生物多様性かつしか戦略策定委員会」と「生物多様性かつしか戦略策定庁内検討部会」の2つの組織を設けて検討を行いました。

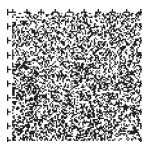
◇生物多様性かつしか戦略策定委員会：学識経験者と葛飾区部課長級職員で構成する戦略の検討及び決定をする組織

◇生物多様性かつしか戦略策定庁内検討部会：主に葛飾区係長級職員で構成する専門的・実務的な事項を調査し、検討する組織

1-2 かつしか戦略策定の経過

表-1 かつしか戦略策定の経過

	年 月 日	会 議 名	主 な 内 容
平成23年度	6月6日	第1回策定委員会 第1回庁内検討部会	● かつしか戦略の策定方針について ● 今後の検討日程と内容について
	6月29日	第2回庁内検討部会	● 既存事業及び調査データについて ● 施策の方向性について
	7月7日	第2回策定委員会	● 基本戦略（施策の方向性）について
	7月25日	第3回庁内検討部会	● 基本戦略（施策の方向性）について
	7月29日	生物多様性かつしか戦略策定説明会・意見交換会	● 生物多様性に関する基調講演 ● 学識経験者・環境保全団体・葛飾区長によるパネルディスカッション
	8月1日	第4回庁内検討部会	● かつしか戦略骨子案について
	8月11日	第3回策定委員会	● かつしか戦略骨子案について
	3月8日	生物多様性かつしか戦略の推進体制に関する説明会・意見交換会	● かつしか戦略について ● かつしか戦略の推進体制について ● 環境保全団体などの活動報告について
	3月27日	第5回庁内検討部会	● かつしか戦略素案について
平成24年度	4月19日	第4回策定委員会	● かつしか戦略素案について
	5月21日	第6回庁内検討部会	● かつしか戦略素案について
	5月28日	第5回策定委員会	● かつしか戦略素案について
	6月28日	第7回庁内検討部会	● かつしか戦略素案について
	7月26日～8月24日	パブリックコメント	● かつしか戦略素案に対する意見募集
	8月29日	第6回策定委員会	● かつしか戦略最終案について



2 策定委員会及び庁内検討部会名簿

かつしか戦略の策定委員会委員及び庁内検討部会員を表-2～4に示します。

表-2 委員名簿

(敬称略)

区分	氏名		所属	任期
学識経験者	委員長	小堀 洋美	東京都市大学 環境情報学部教授 (生物多様性分野)	
	副委員長	田中 利勝	自然通信社代表 (自然環境分野)	
	〃	佐々木 洋	プロ・ナチュラリスト (環境教育分野)	
区職員	委員	笥 晃一	政策経営部長	
	〃	深井 祐子	環境部長	
	〃	濱中 輝	都市整備部長	平成24年3月31日まで
	〃	柳澤 永一	都市整備部長	平成24年4月1日から
			都市施設担当部長	平成24年3月31日まで
	〃	玉川 俊晴	都市施設担当部長	平成24年4月1日から
	〃	小林 宣貴	政策企画課長	
	〃	大木 泰治	営繕課長	
	〃	情野 正彦	街づくり計画担当課長	平成24年3月31日まで
	〃	泉山 省吾	街づくり計画担当課長	平成24年4月1日から
	〃	工藤 勝己	道路建設課長	
	〃	大谷 友彦	道路補修課長	平成24年3月31日まで
	〃	浅倉 清	道路補修課長	平成24年4月1日から
	〃	中田 逸夫	公園課長	平成24年3月31日まで
	〃	長谷川 豊	公園課長	平成24年4月1日から
	〃	齋藤 登	施設課長	
〃	宮地 智弘	生涯学習課長	平成24年3月31日まで	
〃	今井 英敬	生涯学習課長	平成24年4月1日から	

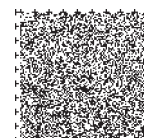


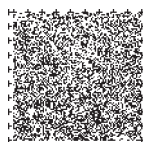
表-3 学識経験者委員の経歴

(敬称略)

氏名	経歴
小堀 洋美 (こぼり ひろみ)	<p>東京都市大学環境情報学部環境情報学科教授 「葛飾区環境基本計画（第2次）」策定委員 生物多様性かつしか戦略策定委員会委員長</p> <p>国内外の地域をベースとした問題解決型の生物多様性の保全に関して、研究・調査及び教育活動をされています。 保全生物学、環境教育のモニタリング手法などを専門的に研究されています。</p> <p>1979年 農学博士（東京大学） 1997年 武蔵工業大学（現東京都市大学）環境情報学部環境情報学科助教授 2003年 武蔵工業大学環境情報学部環境情報学科教授 2004年 神奈川県及び横浜市自然環境保全審議会委員、神奈川県及び横浜市環境アセス審議会委員など 現在、横浜市環境審議会委員など</p>
田中 利勝 (たなか としかつ)	<p>自然通信社代表 江戸川の自然環境を考える会代表 利根運河の生態系を守る会代表 生物多様性かつしか戦略策定委員会副委員長</p> <p>調査活動に裏打ちされた膨大な知識を基礎に、自然環境の保全に尽力されています。 葛飾区郷土と天文の博物館「野遊び道場」講師、葛飾区自然・環境レポーター*研修会等講師を務められています。 その他、自治体の依頼を受けて河川・魚類調査や樹木調査研究等をなさっています。</p> <p>主な著書は、「江戸川まるごと図鑑」、「歩いてみよう利根運河」、「小櫃川トンボ生息調査写真報告書」、「やさしいトンボ図鑑 3」、「江戸川生物小図鑑 2」、「坂川・清流復活と生きものたち」など</p>
佐々木 洋 (ささき ひろし)	<p>プロ・ナチュラリスト 生物多様性かつしか戦略策定委員会副委員長 (財)日本自然保護協会自然観察指導員、東京都鳥獣保護員などを経て20年以上にわたり環境教育・自然解説活動を展開されています。</p> <p>現在、日本では数少ないプロフェッショナルのナチュラリスト（自然案内人）として、国内・外の各地をフィールドに、講演、執筆、写真撮影、テレビやラジオ番組への出演・監修など幅広く活躍されています。</p> <p>主な著書は、「ぼくらはみんな生きているー都市動物観察記」、「都市動物たちの事件簿」、「野遊びハンドブック」、「自然観察アクティビティハンドブック」、「荒川イエローページ」、「カラスは偉い」、「『調べ学習』に役立つ水辺の生きもの」他多数。 区環境課主催の「自然“感”察指導員養成講座」、「葛飾の自然入門講座」、「鳴く虫の女王『カンタン』と秋に鳴く虫を聴く会」、「かつしかっこ探検隊」などの講師を務められています。</p>

表-4 部会員名簿

会長	環境課長
部会員	環境課（自然環境係・緑化推進係・温暖化対策担当係）、政策企画課（企画担当係）、営繕課（建築係）、街づくり調整課（街づくり計画担当係）、道路建設課（橋梁建設係）、道路補修課（工務係・街路樹係）、公園課（工務係・施設再生係・管理運営係）、施設課（管理係・整備係）、生涯学習課（区民大学担当係）



3 意見交換会及びパブリックコメントの実施結果

3-1 意見交換会の実施結果

「かつしか戦略」を策定するにあたって、区民及び地域団体との意見交換会を行いました。意見交換会の実施結果を以下に示します。

意見交換会で頂いたご意見はできる限り「かつしか戦略」に反映するよう努めました。

表-5 「かつしか戦略」策定説明会・意見交換会の実施概要

名 称	生物多様性かつしか戦略策定説明会・意見交換会
実 施 日	平成 23 年 7 月 29 日（金）
実 施 場 所	男女平等推進センター 1 階 多目的ホール
参加者人数	61 名
主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葛飾区の中で保全すべき環境を抽出して適正な管理をしながら保全を進めて欲しい。 ・ 区内の動植物分布状況を把握するため調査隊を募集してはどうか。 ・ 施設づくりよりも、担い手の育成を行うことで、NPO や区民団体などの活動などをもう少し進めて欲しい。 ・ 意見交換会を今回のみで終わらないで欲しい。「生きもの」の命のつながりのイベントを催して欲しい。 ・ 葛飾区内にはまだたくさんの自然が街の中にも残っている。区民がそれに気づいてもらえるような取組が必要だと思う。 ・ 葛飾区の小学校のために河川敷での田んぼづくりを提案する。 ・ 区が中心となって、区内業者に説明会などを行い、街づくりを含めた自然環境の保護が必要だと思う。 ・ 策定したものを行政の中においても、部署間をこえて、それに基づいた行政サービスを行って欲しい。 ・ 自然のことを知らない立場の人も参加できるようなことを考えて欲しい。 ・ 特定外来生物*の駆除を区民が見える形で進めて欲しい。

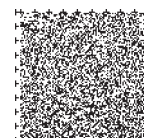
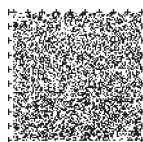


表-6 推進体制に関する説明会・意見交換会の実施概要

名 称	生物多様性かつしか戦略の推進体制に関する説明会・意見交換会
実 施 日	平成 24 年 3 月 8 日 (木)
実 施 場 所	かつしかエコライフプラザ 2 階 研修室
参加者人数	38 名
主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・メーリングリストや広報誌等により情報の発信や共有ができれば良い。 ・子供を対象にした活動をするるとまとまりやすい。子供を対象にしたイベントにより親や家族、近所の人たちも巻き込むことができる。 ・葛飾区は河川が特徴である。河川管理者にも入ってもらい一緒に考えて欲しい。 ・多自然川づくりの考え方を取り入れると良い。 ・緑が少なくなっているので、屋上緑化*など何か良い方法を考えて実施して欲しい。 ・堤防が貴重な緑地帯の役割を果たしているが、年2回の除草だけでは外来種*が繁茂してしまう。 ・緑の回廊づくりには堤防、河川敷、道路を含めて考えてほしい。 ・横断組織の運営方法として、ブロック別に分けると良いと思う。活動内容としては、皆で議論をしてその結果をまとめた後に現地踏査をするなどが考えられる。 ・行政間の横断組織も必要である。江戸川流域でも戦略をまとめている自治体があるので、行政間でも情報共有して進めて欲しい。



3-2 パブリックコメントの実施結果

(1) 実施時期

- ・平成24年7月26日（木）～平成24年8月24日（金）
- ※図書館については、初日が休館日のため7月27日（金）から実施しました。

(2) 閲覧場所

- ・環境課、区政情報コーナー、区民事務所、区民サービスコーナー、図書館（地区図書館及び新宿図書センターを除く）計19か所
- ・また、区ホームページにも掲載し、閲覧できるようにしました。

(3) 提出された意見と提出された意見の取扱い

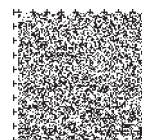
- ・意見提出者：10人 意見数：104件
 - ⇒戦略（案）に意見を反映する・・・・・・・・・・・・・・・・・・25件
 - ⇒戦略（素案）に入っている・・・・・・・・・・・・・・・・・・29件
 - ⇒戦略・事業の推進にあたって参考にする・・・・・・・・・・18件
 - ⇒意見・要望としてお聞きする・・・・・・・・・・・・・・・・・・32件

表-7 提出された意見の内訳

項目	意見数
全般に関するもの	38
内容（図や写真）及び分かりやすさに関するもの	(5)
他自治体との連携や協働に関するもの	(5)
生きものの写真や資料に関するもの	(5)
生きものの確認状況に関するもの	(4)
葛飾区の生態系における具体的な保全・復元目標に関するもの	(4)
用語の定義・表現に関するもの	(3)
その他に関するもの	(12)
第1章（かつしか戦略とは）に関するもの	8
生物多様性の定義に関するもの	(7)
その他に関するもの	(1)
第2章（かつしかの生きものたちの「今」と「昔」）に関するもの	18
生きものに関するもの	(5)
用語の定義・表現に関するもの	(4)
その他に関するもの	(9)
第3章（50年後のかつしかの生きものたちのために）に関するもの	1
かつしか戦略の目標に関するもの	(1)
第4章（命のつながりを「未来」へつなぐための5つの基本戦略）に関するもの	36
区の生物多様性が高いポイントがわかるマップ作り他の事業提案に関するもの	(8)
エコロジカル・ネットワークを構築する対象種に関するもの	(6)
地域の生態系や系統に配慮した緑化の推進に関するもの	(5)
水田生態系の再生と水田の整備に関するもの	(4)
その他に関するもの	(13)
第5章（かつしか戦略実行に向けて）	3
順応的管理に関するもの	(3)

(4) 実施結果の公表

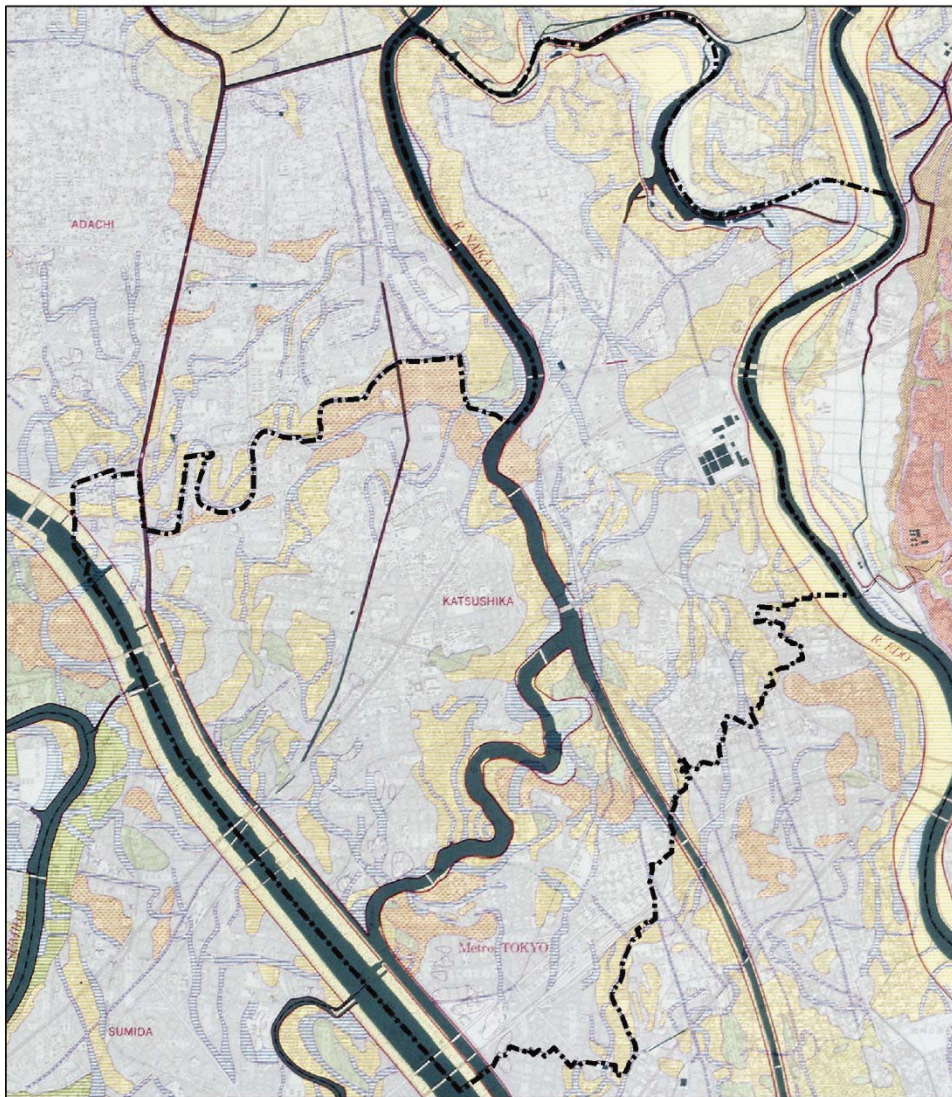
- ・提出された意見と区の考え方は、区ホームページに掲載しました。











4 かつしかの自然環境の変遷

4-1 昔のかつしかの自然環境

- ・葛飾区は、江戸川や中川が氾濫してできる氾濫原*という地形の上に位置しており、川が運んできた泥や砂でできています。このような環境には湿った砂や泥を好むヨシなどの湿性の植物が生育します。
- ・人の活動による影響が少なかった時代のかつしかの自然環境は、河川とそれが氾濫してできた湿地にヨシ原が、土砂が堆積して少し高くなった場所に樹林が成立していた程度であったと考えられます。



凡例

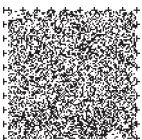
 隆起砂州	 旧河道(人工水路を含む)
 自然堤防	 旧池沼
 後背湿地	 破堤地形
 三角州	 現河床



0 500 1,000 2,000 m

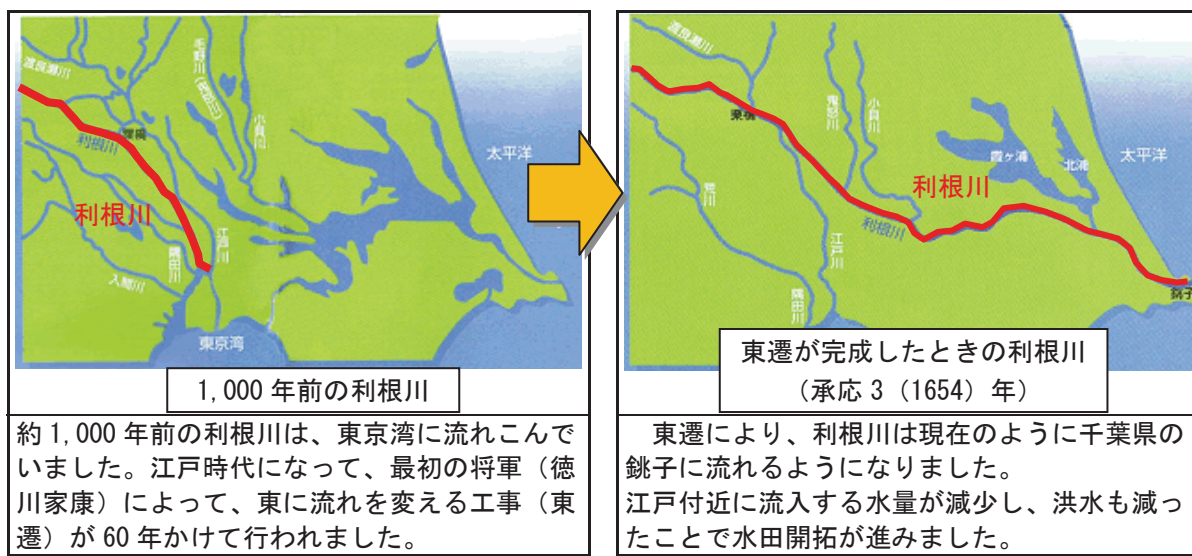
出典：「水とかつしか」専門調査報告書付図（昭和63年、監修 大矢雅彦）

図-1 地形分類図



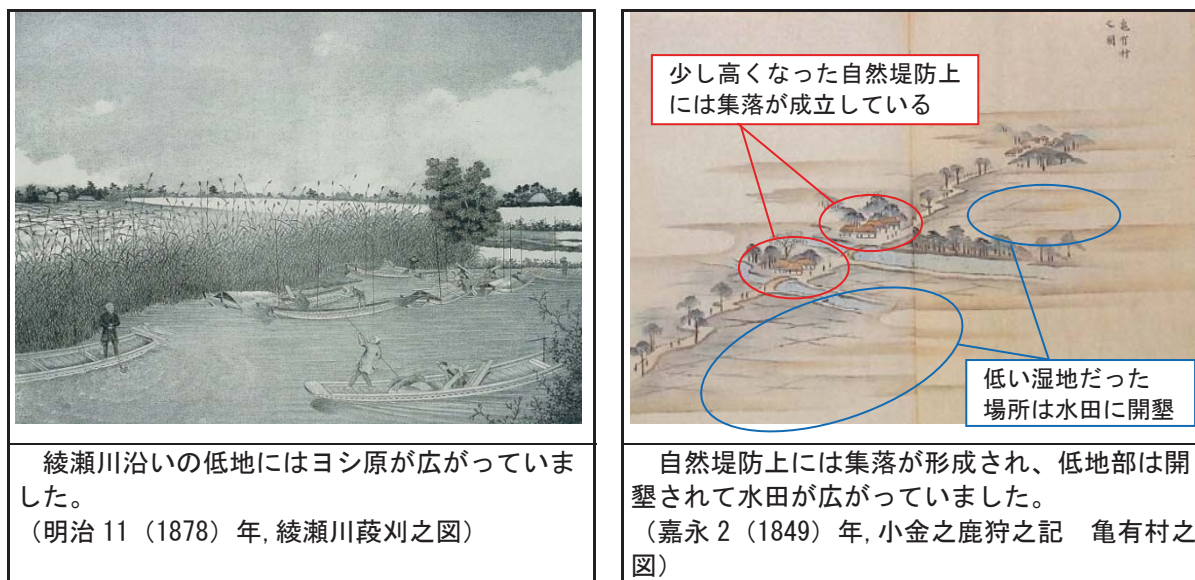
4-2 葛飾区の発展（江戸時代）

- ・約1,000年前の利根川は東京湾に流れ込んでいましたが、江戸時代に行われた利根川東遷事業により、江戸付近に流入する河川の水量が減少しました。
- ・これにより葛飾区周辺では水田開拓が進み、「葛西三万石の米産地」と呼ばれるようになりました。
- ・江戸時代の葛飾区には、ヨシ原などの湿地と水田が広がっていました。



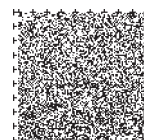
出典：「利根川上流河川事務所ホームページ」（平成24年6月22日時点）

図-2 利根川の東遷



出典：「葛西用水」（平成13年, 葛飾区郷土と天文の博物館）

図-3 江戸時代の葛飾の様子



4-3 生息・生育環境の変化（土地利用）

- ・ 明治時代には葛飾区のほぼ全域に水田が広がっていました。
- ・ 治水対策*として明治44年から昭和5年にかけて荒川が開削され、これにより荒川・中川・綾瀬川の舟運*を活かして、河川沿いに工場が立地していきました。
- ・ 戦後は、戦災被害が少なかったこともあり都心部から移り住む人々で人口が増加しました。またその後の高度経済成長期を経て、水田や畑地が次々と工場や住宅地に変わり市街地が広がりました。

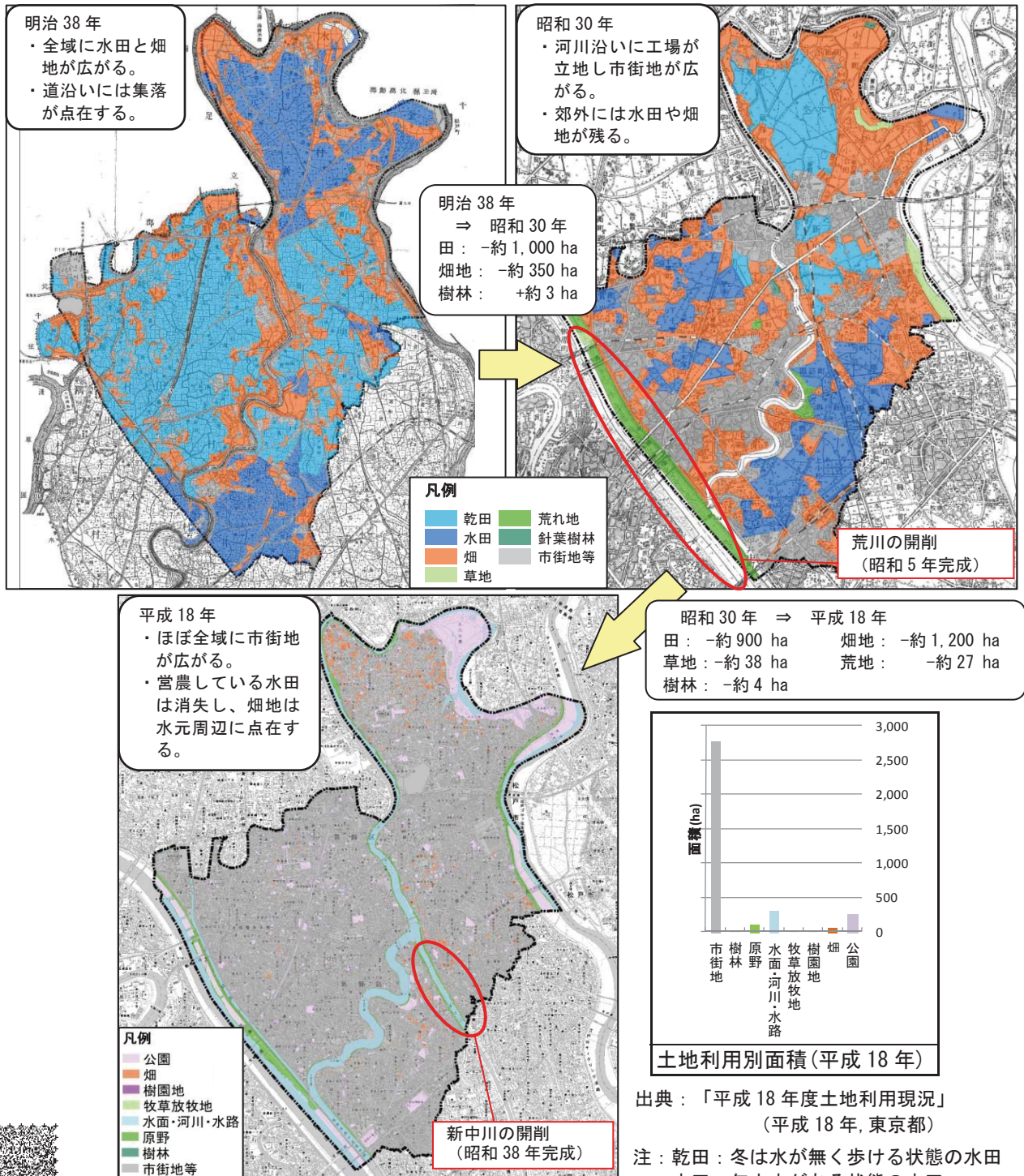


図-4 土地利用の変化